



今号の一枚

しずく宿る梅

撮影：岡崎 均 教授

雨上がりのしずくをまとった梅の花が、静かに春の訪れをのぞかせています。



学校法人浪商学園 学園報 ちぬ No.066 令和7年2月20日発行

発行者：学校法人浪商学園 総務部企画室／発行責任者：野田達彦
〒590-0496 大阪府泉南郡熊取町朝台1-1
TEL 072-479-3111 FAX 072-453-8972
学園ホームページ：https://www.namishogakuen.jp/
印刷・製本：株式会社毎日新聞大阪センター

Osaka University of Health and Sport Sciences / OUHS Namisho Junior and Senior High School
Osaka Seiryu Junior High School and Senior High School / OUHS Namisho Kindergarten

浪商学園報

令和7年2月20日発行
学校法人浪商学園 学園報

CHINU



ちぬ

学園広報誌 ちぬ の由来

浪商学園に勤務する教職員の交流を図るために発行された学園広報誌「ちぬ」。

茨木時代は校舎前（現在の浪商幼稚園前）を流れる安威川より名を冠した「あいがわ」でしたが、熊取移転に伴い「ちぬ」と改められました。

「ちぬ（茅渚）」とは奈良時代から見える和泉地方の呼称。「古事記」神武天皇条にも見え、大阪湾を「ちぬの海」ともいい、浪商中学校・高等学校、大阪青凌中学校・高等学校の校歌でも歌われています。

特集

浪商野球部 創部100周年

浪商野球部 100周年に寄せて

—つなぐ想い— 浪商学園 理事長 野田賢治

浪商を強くたくましいチームにもう一度

大阪体育大学浪商高等学校 硬式野球部 監督 中村 好治



設置校 Topics

私にとっての SFGs

浪商学園・大阪体育大学×泉州南消防組合による合同消防訓練

1955(昭和30)年
第27回 選抜高等学校野球大会

浪商野球部 100周年に寄せて —つなぐ想い—

浪商学園 理事長 野田賢治

2021年に浪商学園は創立100周年を迎え、2024年には浪商野球部が創部100周年を迎えました。野球部は学園創立からわずか3年後に設立されました。当時は、現在のように野球がメジャースポーツではない時代でした。それにもかかわらず、なぜ野球部が設立されたのかについて、野田三郎は後に「頑健な体を作ることと、学校生活において重要なチームワークの大切さを学ぶことが目的であった」と語っています。もちろん、野球好きが影響していることは言うまでもありません。

1926(大正15)年、野球部は創部からわずか3年目にして大阪代表として全国大会に出場。浪商野球部は一気に強豪校の仲間入りを果たし、大阪の野球少年たちは浪商をめざすようになりました。その頃の日本の野球は、1925(大正14)年に東京六大学リーグが始まり、野球ファンが待ち望んでいた早慶戦も復活。1927(昭和2)年には、社会人野球の都市対抗野球大会が始まり、同年夏には甲子園大会が日本初の野球中継としてラジオ放送されました。1934(昭和9)年には、ペーブ・ルースら米大リーグ選抜チームが来日し、全日本チームなどと16試合を戦い全勝を取めます。当時の力の差は歴然としており、まさか90年後にWBCで日本が米大リーグ選抜に勝利し、優勝するとは誰も想像し得なかったでしょう。その後、1936(昭和11)年には日本職業野球連盟(現・日本野球機構)が創立され、野球人気は加速しました。プロ野球が始まる前に、最も人気のあった試合は早慶戦でした。その早慶戦を題材にしたしゃべくり漫才「エンタツ・アチャコの早慶戦」がラジオ放送され、野球のおもしろさが全国に広がりました。

そして、浪商野球部も着実に実績を積み重ねていきました。1926(大正15)年に全国大会へ初出場を成し遂げ、その実力が認められるようになります。春の選抜大会では、1932(昭和7)年から1934(昭和9)年まで3年連続で出場し、1935(昭和10)年は校舎火災により出場を辞退したものの、翌1936(昭和11)年から1939(昭和14)年まで再び4年連続で出場し、大阪においてはまさに無双ともいえる存在感を示しました。1940(昭和15)年までの15年間(※昭和16年～20年まで第2次世界大戦の影響により大会中止)において、選抜大会に7回出場し、優勝1回・準優勝1回の戦績を残しました。5回目の出場となる1937(昭和12)年第14回大会で初優勝を達成し、選抜優勝旗を大阪に初めて持ち帰ったのです。また夏の選手権大会においても、4回出場を果たしました。これらの快挙により浪商野球部は全国的な注目を集め、ますます野球部への入部希望者が増えて行きました。当時、入学生のごほとんどが野球部希望であったといっても過言ではない状態でした。そのため、野球部に入部できなかった多くの生徒がさまざまな運動部で活躍し、その結果、浪商はスポーツ強豪校となったのです。故・七代目竹本住太夫師(人形浄瑠璃文楽太夫/重要無形文化財保持者(人間国宝)/文化勲章受章者)は、「浪商には合格したけれど、野球部は不合格でした」と述べておられました。住太夫師はバレーボール部に入部され、卒業後は大阪専門学校(後の近畿大学)に進み念願の野球部に入部。捕手として活躍されました。

戦争が終わり、1946(昭和21)年全国中等学校優勝野球大会が再開されました。終戦から1年経過したものの、校庭は穴だらけで日々地ならしに追われ、用具も不足しておりキャッチボールすらままならない状況でした。さらに食糧事情も厳しく、常に腹ペコでふらふらの状態になりながら練習に励んでいたそうです。そんな過酷な環境の中、8月16日から8月21日まで4試合を戦い抜き、ハラペコ・ふらふらの選手たちは見事優勝。浪商野球部は夏の選手権大会においても、大阪に初めて優勝旗を持ち帰りました。この大会は甲子園球場ではなく西宮球場で行われました。試合に敗退した学校は勝ち残ったチームに米を託したそうです。戦後、国民的な娯楽からは程遠い状況の中、大阪の人々に勇気を与えた浪商野球部の活躍は大きな存在でした。

終戦後から今日まで、春の選抜大会に12回、夏の選手権大会に9回出場し、夏2回・春1回の優勝を飾っています。通算では、春夏合わせて32回の出場実績を誇りますが、前回出場からすでに20年以上が経過しました。野球部創部100周年という節目を迎え、全国大会に33回目の出場を果たす姿を見たいと願う気持ちは、きっと多くの人が抱えていることでしょう。私もその一人として応援しています。がんばれ、浪商野球部!!



浪商を強くたくましいチームにもう一度

大阪体育大学浪商高等学校 硬式野球部 監督 中村 好治

私が浪商野球部のユニフォームに袖を通したのは、52年ぶりのことです。学生時代から、この学校の名声と伝統を深く感じてきました。専修大学に進学した際、先輩や同僚から「浪商から来たのか。すごいところから来たな!」と言われ、自分が背負うものの重みを改めて実感しました。そして、監督として再びこの地に戻ることができた今、その使命を強く感じています。

浪商野球部は創部100周年を迎えました。その歴史には、全国制覇を成し遂げた歓喜の瞬間や、苦しい時代を乗り越えた努力と忍耐が刻まれています。1937(昭和12)年春の甲子園で初優勝を勝ち取り、その後も春夏合わせて4度の優勝を含む通算32回の甲子園出場という輝かしい実績を築いてきました。特に、戦後は全国的に知られる強豪校として、高校野球界に大きな足跡を残しています。しかし、夏の甲子園では牛島選手・香川選手のバッテリーを擁した1979(昭和54)年を最後に、また春の選抜では2002(平成14)年を最後に、伝統の地から遠ざかっています。この間、野球界全体の環境が変化する中で、再び甲子園に戻ることはチームにとって大きな目標であり続けています。創部100周年を迎えた今、私は浪商の歴史を受け継ぎつつ新たな歴史を刻む決意を胸に、選手たちには甲子園出場を目標とするだけでなく、技術の向上とともに、プレッシャーを乗り越え困難を切り開く力を身につけてほしいと願っています。試合の勝利だけでなく、その過程で得られる成長や学びを大切に、そして、勝利に向かってひたむきに努力し続ける。自分を信じ、仲間を信じる力こそが、試合を勝利に導く原動力になる。監督としての役割は、選手たちが困難を乗り越え、成長できるように導くことだと信じています。



中村 好治 監督 (浪商高等学校/1971年度卒)

浪商(現・大体大浪商)から専修大学へ進学し、社会人野球では鐘淵化学(現・カネカ)と神戸製鋼で外野手として活躍。引退後はリトルリーグやボーイズリーグの監督を経て、社会人野球、大学・高校野球の監督として選手育成に尽力。2002年、監督就任3年目で日章学園(宮崎)を初の甲子園出場に導く。その後、三重中京大学で監督を務めた後、系列の三重高校で指揮を執り、2014年にチームを甲子園初の準優勝へと導いた。2023年8月より本校監督に就任し、豊富な指導経験を活かしてチーム強化に取り組んでいる。これまで多くの選手を育成し、幅広い世代での指導実績を誇る。

「4年以内に甲子園出場を果たす」という目標は、私だけでなく、全員の共通目標です。この目標に向かって、選手、指導者、卒業生、そして学園関係者や地域の皆さまが丸となることで、浪商が再び強く、たくましいチームへと進化することができます。甲子園の舞台で再び浪商の名前を届けることが、かつての栄光を知る卒業生や地元の方々にとっても、大きな励みになると確信しています。浪商のユニフォームを身につけることは、誇りであると同時に責任を担うことでもあります。選手たちには、自分たちの力で新たな歴史を刻む覚悟を持ってほしい。その覚悟と情熱を持った選手たちとともに、再び甲子園への道を歩むことは、私にとってこの上ない喜びです。浪商復活の道のりは簡単ではありませんが、確かな一歩を積み重ねています。「全員で甲子園に行く」その思いを胸に、浪商は新たな未来へと進んでいきます。

今後とも、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



1907(昭和12)年、初の全国制覇



第28回全国中等学校優勝野球大会
1946(昭和21)年、戦後初開催



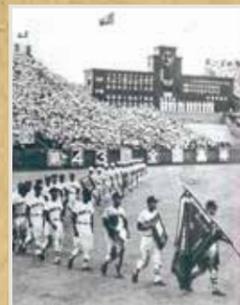
第27回選抜高等学校野球大会
ぶりの栄冠、歓喜のホームイン。
1955(昭和30)年、選抜で18年



浪商魂、熱き浪商応援団!



第43回全国高等学校野球選手権大会
15年ぶり2度目の優勝
1961(昭和36)年、選手権大会で



黒字のNは浪商応援団
優勝戦を埋め尽くした記録的な観衆



Topics

大阪体育大学 (大学院・スポーツ科学部・教育学部)



副専攻も備え、より幅広く深く、科学的な視点からスポーツを学べる体制へ

●スポーツ科学部がスタート

スポーツ科学部が4月1日、開学以来59年の歴史を刻んだ体育学部を組織改革するかたちで誕生。1期生568人が入学しました。6コースを備え、全国でも珍しい「副専攻」も導入しました。

●パリオリパラで選手・教員が活躍

パリパラリンピックで水上競技部の宇津木美都さん(教育学部)が競泳、アダプテッド・スポーツ部の内田峻介さん(同)がボッチャに出場。パリ五輪では土屋裕睦教授が日本選手団のウェルフェアオフィサーを務めました。



社行会で集まった仲間たちから、選手たちへ全力のエール!

大阪体育大学浪商中学校・高等学校

●頑張る生徒たちと部活動の成果

今年もたくさんの部活動が活躍してくれ、高校の陸上競技部・レスリング部、中学の体操部・レスリング部が大阪府知事を表敬訪問させていただきました。吉村知事からあたたかいお言葉を頂戴し、大変励まされました。関係者の皆さまへの感謝の気持ちを忘れず、精進していきたいと思えます。



努力の成果が地域からも注目され、笑顔輝く生徒たち



仁川での挑戦と成長

●韓国・仁川での学びと経験

高校進学グローバルコースの生徒(希望制)が韓国・仁川研修に行きました。「みんなで作る研修」をテーマに、換金や乗り継ぎなどすべて自分たちで調べて現地へ行きました。いろいろトラブルもありましたが、現地の方に助けていただきながら乗り越えることができました。仁川大学での研修においては、何度も発表の練習を行いましたので、学生の前でも堂々と発表をすることができました。

大阪青凌中学校・高等学校

●イギリスインターナショナルプログラム

毎年、高校1年生・2年生の希望者を対象に行っている夏の海外語学研修プログラムですが、コロナ禍の中断を経て、昨年度、4年ぶりに再開することができました。そして今年度も、定員を上回る希望者があり、最終的に30名の生徒が、イギリスのケントカレッジにて、17日間のプログラムに参加しました。現地では、イタリア・スペイン・ロシアなど、10カ国以上の英語を母国語としない国々から集まった学生たちとともに、さまざまな活動を通じて英語でコミュニケーションを取りながら、交流を深めました。



多国籍の仲間と英語で協力



ケントカレッジでの17日間、笑顔の思い出!

●オーストラリア研修

中学3年生の海外研修を、10月16日～23日の日程で、オーストラリアのゴールドコースト周辺で実施しました。生徒たちは、2～3名ずつに分かれて、現地の家庭に6日間、ホームステイをしました。また、4日間、現地の学校でbuddy(バディ)といっしょに授業を受け、交流しました。中3の年齢で異文化に触れ、フレンドリーなオーストラリアの人たちと交流して、生徒たちが得たものは計り知れないと思います。生徒たちにとって本当に貴重な体験となりました。



現地校との交流会 - 日本文化の紹介 -

大阪体育大学浪商幼稚園

●第75回運動会

抜けるような青空の下、茨木市立東雲運動広場で運動会を開催しました。今年は未就園児親子の種目も設け、たくさんのちびっこが親子で可愛いダンスを楽しみました。どの学年のどの種目も全力でやりきる子どもたちに参観の皆様から盛大な拍手をいただきました。特に年長児の和太鼓「SAKURA」は子どもたちの真つすぐな眼差しと天高く舞うような太鼓の迫力に、ハンカチで目を押さえる保護者の姿も多くありました。



青空の下、笑顔と感動の運動会。年長児 太鼓「SAKURA」

●中学生の職場体験

今年は茨木市だけでなく高槻市からも中学生が総合的な学習の時間の取り組みとして職場体験にやってきました。中学生にとっては職業観の形成の一助とするだけでなく、自分の成長過程を振り返る貴重な学びの場になっています。



中学生は園庭でも引っ張りだこ

●地域に開かれた幼稚園へ

未就園児向けの取り組みとして今年度新たにイマージョンプレスクールクラスのレッスン前後の預かり保育、園庭開放(遊戯室あそび)などを始めました。幼稚園児は小さいのですが、さらに小さなちびっこたちに比べると園児がずいぶんとお兄さん、お姉さんらしく見えます。



親子でサーキットあそび

私にとってのSFGs

～身体がすべてのクオリティを左右する!?～

今までの「私のSFGs」が仕事寄りだったので、少し毛色を変えたいと思います。記載内容はあくまで私見なのでご容赦ください。

私は何をやるにしても、大事なことは健康な身体であると思っています。

そうですSFGsの16番目の「健康に気をつかおう」です。

健康な身体でないと心も整わないし、仕事のクオリティも担保できません。私自身、頭からつま先まで健康、ということではないですが少しでも気をつけていることがあります。

簡単なことですが、朝昼晩3食をだいたい決まった時間に食べること、手洗いうがいを毎日行うことです。簡単な習慣ですが、これらが崩れしない自分の体調を作っているような気がします。これを読まれている方の大半が実行されている習慣でしょう。

そもそもSFGsは建学の精神をわかりやすく可視化し、日々の行動に落とし込んで頂きたいという想いから生まれました。少し極端かもしれませんが、ちゃんと食事することも手洗いうがいをすることも建学の精神を体現していることとなります。

みなさんの職場のどこかにSFGsポスターが貼られていると思います。お手すきの際にポスターを見て頂き、ご自身の日々の行動と照らし合わせてみてください。意外といろいろ当てはまると思います。その数だけ建学の精神を体現しているということです。

話が少し脱線しましたが、これからもゆるく健康第一を謳って日々を過ごしていきたいと思っております。

お付き合いいただきありがとうございました。

(総務部／企画室担当 野田達彦)



SOSHIKI FUDO GOALS

浪商学園をより良くするための17の目標

1 ポジティブに考えよう	2 自己研鑽をしよう	3 言い訳はやめよう	4 当事者意識を持とう	5 コスト意識を持とう	6 時間を大切にしよう
7 社会情勢に興味を持とう	8 相手を尊重しよう	9 人の話を聴こう	10 見て見ぬふりはやめよう	11 卒業生が誇れる母校にしよう	12 自分の仕事に誇りを持とう
13 感謝の言葉を伝えよう	14 あいさつをしよう	15 笑顔を心がけよう	16 健康に気をつかおう	17 職場を快適にしよう	SOSHIKI FUDO GOALS 行動指針を浸透させ浪商学園をより良くすることをめざした17の目標

巨大地震・高層建物火災を想定した訓練を実施

浪商学園・大阪体育大学×泉州南消防組合による合同消防訓練



30メートルはしご車

高所からの救出、命を繋ぐ訓練の力



中央棟6階非常階段から避難する様子



防火・防災意識を高め、地域と共に強化する体制

令和6年11月9日(土)「119番の日」に、熊取キャンパスOUHS中央棟および周辺にて消防・防災訓練が行われ、教職員や消防志望の学生ら、約50人が参加しました。

この訓練は、秋の全国火災予防運動週間にあわせ、泉州南消防組合が毎年実施している消防訓練を本学園で実施したいとの申し出があったことから、大阪体育大学として消防法など年1回以上の実施が定められている消防・防災訓練と初めて合同で実施されることとなり大規模なものとなりました。

訓練内容は、巨大地震が発生するとともに、地震に伴う電源供給の不安定さや設備の損傷で、中央棟3階サーバー室のサーバーが過熱し、火災が発生したため、火災現場を避けて避難し、避難できなかった要救助者を消防隊員が救出するという想定で展開されました。

今回の消防・防災訓練では、非常ベルを押すことはもちろん、防火シャッターを降ろす、消火器にて模擬消火(初期消火班)、館内放送による避難指示(指示班、通報連絡班)、非常階段を使用した避難(避難誘導班)、体調不良者への対応(応急救護班)など参加者が担当ごとにリアリティを持って取り組みました。

続いて行われた泉州南消防組合の消防訓練では、高度救助工作車や30メートルはしご車、タンク車、ポンプ車などが集結しました。出動部隊が逃げ遅れた3人を中央棟6階バルコニーから、30メートルはしご車で救助するとともに、3階サーバー室や4階図書館に向けて放水するなど、消火活動を迅速に行う様子とはとても迫力と緊張感がありました。

当日を迎えるまでに熊取消防署との4度に渡る打合せ、リアリティのある災害想定(前例検索および熊取図書館への訓練実績のヒアリングなど)、消防・防災計画の再確認、消防・防災設備や避難経路の下見等々の事前準備を通じて、日常あまり気にすることのない防火・防災体制の点検作業となることも多く、その点でも有意義な取り組みとなりました。

訓練終了後には、防火・防災管理者である細川法人事務局長・常務理事から、「この教職学の取り組みを通じて、日々の防火・防災意識を向上させること、熊取町のハザードマップも日々確認しつつ、近隣住民や泉州南消防組合のみならず『浪商学園さんは大丈夫』といってもらえるような体制を整備することが我々の責務である。」とご挨拶があり、参加者一同、心身を引き締めて訓練を終了しました。(庶務部／庶務担当 松本和典)

はしご車救出訓練を体験して

来年度から地元で消防士として働くことになり、貴重な経験を積む機会として、はしご車に乗せていただきました。6階の高さは普段感じる事のない恐怖を伴いましたが、消防隊員の円滑な救助活動のおかげで、安心して地上に戻ることができました。訓練当日は快晴で風もありませんでしたが、それでもはしご車のかごが揺れる場面がありました。この体験を通して、厳しい環境下で冷静に対応するための精神力と技術力の重要性を改めて実感しました。(教務補佐 高橋篤広)



地震を想定した避難訓練の様子

「訓練は本番のように、本番は訓練のように」

大阪体育大学浪商中学校・高等学校



安全に避難経路を確認する生徒たち(2024年9月2日)

大阪青凌中学校・高等学校



災害に備える大切さを学ぶ(2024年4月13日)

大阪体育大学浪商幼稚園



机の下に一次避難する園児たち(2024年9月6日)